

# 会 議 録

- 1 開催した会議の名称 平成 30 年度第 2 回 佐賀県博物館及び美術館協議会
- 2 開催日時 平成 31 年（2019 年）2 月 5 日（火曜日）午後 1 時 30 分～3 時
- 3 開催場所 佐賀県立博物館 2 階 応接室
- 4 出席者 先崎委員、宮島委員、小林委員、志佐委員、徳光委員、  
藤生委員、時里委員、田平委員、塚本委員、江越委員、  
野中委員（委員 14 名の内 11 名出席）  
文化課：橋口課長  
事務局：松本館長、徳島統括副館長、福井副館長、総務課光岡課長、  
同村口係長、学芸課山崎課長、同細川係長、同竹下係長、  
同塚本主査、同香月囑託

## 5 議題

- ① 平成 30 年度事業について
- ② 平成 31 年度事業計画について
- ③ その他

## 6 会議録

- ・①平成 30 年度事業について（資料～39 ページ）を事務局から説明後の議事

**委員長**：ただいま「平成 30 年度事業について」事務局から説明いただきました。何かご質問、ご意見等がありますか。

**委員**：資料 17 ページ (7)にあるように、出張講座を年間 21 回実施しているが、こういったところへどういった内容で行っているのか。

**事務局**：公民館や学校に行っている。また各地域の郷土研究会などにも出掛けている。

**委員**：小学校の来館実績として、比較的まんべんなく県内の市町からの来館があるが、多久市や伊万里市からの来館がない。特に多久市は平成 28 年度には来館しているが、これは池田学さんの展覧会を学校を上げて応援しようという取り組みの一環だった。多久市は維新博への来館も 0 パーセントということで、こういった来館実績のない地域への営業活動、新規開拓の声掛けなどは行っているのか。

**事務局**：別の事業として紹介したミュージアムキャラバン隊は、すべての学校に照会しているが、この表を活かすという意味では、来館のない学校への声掛けなどは行っていない

い。

**事務局**：小学校は「昔の道具」の授業での来館が多い。小城市はちょうどこの期間に昔の道具の特別展をしていて、小城市の小学校は小城市内で勉強をしている。多久も多久市の郷土資料館に常設展がある。これらの地域は地元の施設が充実しているため、わざわざ遠方の県の施設に来ることが少ない。

**委員**：県立博物館・美術館への来館は、ほとんどが「昔の道具」の学習を目的としているのか。

**事務局**：そういうことになる。

**委員**：資料 28 ページの台湾での体験学習は、どこが主催しているイベントなのか。

**事務局**：主催は台湾の十三行博物館という考古系の博物館で、主にアウトリーチや子供たちに来てもらうことに特化した博物館である。この施設が3年前に国際シンポジウムを開催した際、日本から約4～5つの博物館を、また国交のある国からそれぞれ1つの機関を招聘し、現在では「考古生活フェスティバル」というイベントとシンポジウムを開催している。ホームページで吉野ヶ里の活動がユニークだということを知り、直接参加の依頼があった。こちらでは事情が分からなかったため、十三行博物館との提携の実績がある宮崎の西都原考古博物館に話を伺ったところ、非常に進んだ博物館とのことだった。今年は自前の予算も追加して行ったが、過去二年は先方の招聘旅費のみで行っている。佐賀県の体験活動を持って行って実施したところ長蛇の列ができ、先方からぜひ次回もという要請があり、今年で3回目となった。当初は2名招聘されていたが不足し、今年度は予算を要求し、職員の派遣も行った。招聘された2名、博物館から2名、吉野ヶ里からの1名の計5名で、ようやく400名の体験を実施することができた。日本の体験事業よりも極めて進んでいる。また台湾は少子化の進んでいる国であり、子供に投資する傾向にあるため、体験に参加するのも主に小学校1年生から3年生相当の子供たちだった。

**委員**：日本と台湾は正式な国交がないが、そのあたりはどうなっているのか。問題がないのであれば、せっかくの交流であり、今度はこちらが呼ぶこともできるのではないか。

**事務局**：日本からは宮崎の西都原考古博物館、兵庫県の兵庫県立考古博物館、吉野ヶ里の3か所が毎年招聘されている。あと1~2カ所は毎年異なっており、例えば去年は沖縄県立博物館・美術館、その前は奈良県の文化財研究所の附属の博物館が呼ばれた。国交はないが、日本と台湾、佐賀と台湾は国際線が就航しており、支障はないものとする。

**委員**：今年度の維新博と特別展によって人の流れができたのではないかと思う。また景観賞も受賞し、博物館・美術館の周辺は人が来やすい雰囲気になった。そこを利用して、他の団体などとも連携しながら、せっかくできた人の流れを絶やさないような計画をしてほしい。また佐賀市城内は偉人の顕彰地が沢山あり、それらとのつながりを今後の課題にしてほしい。台湾に関しては県議会の中にも日台議連(日台友好促進議員連盟)というものがあり、台湾と交流を深めようと取り組んでいる。台湾は親日家の多い国でもあり、文化

的な交流が今後期待できるのではないか。

**委員：**資料 6 ページの平成 30 年度事業について、「ボクの土木展」、「ものづくり夢ラボ」などは企画力の展示・イベントだったので、特にこういったものを広げていってもらいたい。ただし来年度は維新博後の予算が小さくなっており、同じ規模のものはなかなか難しい。そこをアイデアでどう補っていくか。例えば「グリコ展」などは子供たちも楽しむことができた。「吉岡徳仁展」はイベントを佐賀新聞で何度も取り上げてきたが、お茶のパフォーマンスはどうしても同じような絵になってしまう。予算の関係上、イベントの内容は限られてくるとは思うが、今後はよりアイデアを凝らしてもらいたい。「岡田三郎助の花物語」は、もちろん絵を見せることが一番重要ではあるが、学芸員のアイデアでイベントや関連行事などを作り、盛り上げてほしい。

**事務局：**「花物語」についてはアトリエを使用したイベントを企画中である。

**委員：**中学校(の来館数)の少なさが気になるのと、特に唐津からの遠さを実感している。維新博も訪れたが、移動に時間がかかるため、十分に見学ができず申し訳ない思いをした。昨今中学校の修学旅行で民泊が増えてきており、地域のパンフレットを作るといった事前学習をしている。(博物館・美術館に)実際に足を運ぶのは難しいが、インターネット上で収蔵品の資料を集めたりすることで関わることはできるのではないかと思う。子供たちが自分たちで調べものができるように、どのような準備がなされているか教えてほしい。また、夏休みに調べ学習の企画などがあればよいのではないか。例えば美術館・博物館のパンフレット作りなど、応募できるような参加型の企画があれば、興味の強い家庭であれば遠くの地域からでも足を運んでもらえるのではないかと思う。夏休みなどにそういった子供が主体的に取り組めるような仕掛けはあるか。

**事務局：**インターネット上で資料を検索できるようなシステムはない。以前は夏休みに宿題の相談を受ける企画があったが、当時は利用者が少なく、その時限りになってしまった。前回の協議会で言及された北九州の「いのちのたび博物館」では、ホームページで学校での学習での利用方法などが紹介されており、当館でも参考にしなくてはならないという意識はあるが、今のところ取り組めていない。

**委員：**九州大学の総合博物館でもインターネットで資料検索ができるようになっている。重要な資料だけでもインターネット上で閲覧できれば、子供たちが民泊で他県に行った時にも、佐賀の重要な資料として紹介ができる。

**委員：**今年好評だった「グリコ展」や「土木展」については、親子で楽しめる展覧会であったことが成功に寄与したのではないかと考えている。時期も夏休みということで、タイミングも良かった。今後も親子で楽しめるイベントを、春休みや夏休みを中心に企画してほしい。子供の時に親に連れられて博物館や美術館に行き楽しい思い出を作ると、それが心に残って、自分が大人になって子供を連れて行こうということになるのではないか。博物館・美術館のファンやリピーターを増やす活動ということで、そういった思いで企画を行ってほしい。また、資料 17 ページにある「一夜限定ミュージアムに行かナイト」は

面白い試みだと思うが、一回きりのイベントというのがもったいない。ニュースの取材を考えた時、一回きりのイベントでは、ニュースを見た人が「行きたい」と思っても行くことができないが、「次回のイベントは○日にある」という告知ができれば、視聴者にとって有意義な情報になる。取材の際にはそういった点を考慮するため、期間の長いイベントは取材がしやすい。複数回やってもらえればニュースで放送するなど援護射撃ができるので、その点を考えてみてほしい。

**事務局**：「ミュージアムに行かナイト」は今年で2年目のイベントになる。開催日は栄の国まつりの花火大会に合わせており、花火までの時間調整などで多くの人に足を運んでいただいている。イベントの開催は来館者が見込まれる日程を選んで行っている。またこのイベントは展示室を暗くして行うため、いつでも、どの展示室でも行えるものではない。そのため、現段階では8月4日の栄の国まつりの日を第一候補にしており、発展させていくかは今後検討していきたい。

・「②平成31年度事業計画について（資料40ページ～）」及び「③その他」を事務局からの説明後の議事

**委員長**：ただいま「平成31年度事業計画について」と「③その他」を事務局から説明いただきました。何かご質問はございますか。

**委員**：事業計画の中に「ホキ美術館×MEAM 日本とスペインー驚愕の写実展」とあるが、スペインの作家の作品は来るのか。

**事務局**：作家名まではわからないが、スペインからも代表的な作家の作品が来る予定。

**委員**：第72回二紀展が開催されるが、ぜひ観に来てほしい。「日曜美術館」で遠藤彰子さんが取り上げられていたが、ノーベル賞の大村先生も「彼女は世界に残る作家だ」と書いておられたので、ぜひ観に来てほしい。

**委員長**：今年度は維新博などで足を運ぶ機会もあったかと思いますが、そういった機会に疑問を感じたことや感想などあればご意見をお願いします。

**委員**：池田学さんの《誕生》のスピノフ作品を購入したことは素晴らしいことだと思うが、非常に高額で、池田作品の価値がこれだけ上がっていることに驚いた。作品1点では活用が難しいため、今後もコレクションを充実させてほしい。例えば《動物シリーズ》なども、今度ぜひコレクションに加えてほしい。先日東京の森美術館で《誕生》の展示を観てきか、あのような場で作品に“佐賀県立美術館蔵”とクレジットされていることの効果は非常に大きい。様々な会場で見られる機会があることは作品にとっても非常に良いこと。そういった点からも、今後「池田作品のコレクションは佐賀県立美術館が一番だ」となるよう、コレクションをかたち作ってほしいと強く希望する。

**事務局**：当館としてもできるだけ収集に努めていきたい。

**委員**：岡田三郎助アトリエの滞在制作が良かった。実際の作品制作の様子が見られることと、同じ佐賀県出身の芸術家が作品を描いているということで、子供たちも非常に興味深く話を聞いてくれた。これからもこのような試みを続けてもらえれば、子供たちの将来の目標にもなる。

**委員**：佐賀県立美術館が池田学作品を所蔵していることは全国的に知られている。佐賀県美に行けばいつでも池田作品が観られるのではないかと錯覚し、実際に来てみると観られなかったということが起こりうるのではないか。また作品は紙に描かれているため、保存の観点から常設展などで頻繁に展示することは難しいのではないか。

**事務局**：作品はデリケートなものである一方、観たいという要望は多く、どのように活用していくかが重要な課題になっている。一つには、前回の展覧会でも使用した高性能デジタル画像を活かすことで、将来的には作品展示がない期間も来館者に作品を観てもらえるような環境を作っていきたいと考えている。

**委員**：「池田学展」以降、美術館を利用することが増えた。「グリコ展」や「土木展」などのように、子供と一緒に学んで、体感ができると利用がしやすい。先ほど美術館に到着した際にも、子供が「(前にも)来たよね」とか「お姉ちゃんたちと遊んだね」と言っていて、覚えているんだなと思った。ここ数年は催し物で博物館・美術館に足を運ぶ機会が増え、佐賀のいいところを学ばせてもらっている。これからも子供たちの目線で、大人も一緒に学べる企画を続けてほしい。

**委員**：資料 40 ページの予算の件で、資料購入費や研究費が非常に少ないと感じる。今年は維新博で大きな成果を上げたので、もっと勇気をもって予算編成に取り組んでほしい。

**委員**：展覧会やアウトリーチ活動の根本になっているのが研究調査だと思うが、協議会では研究調査についての報告が全くないので、調査研究書の刊行や、継続中の研究などについて共有してほしい。アウトリーチ活動や講座など様々なニーズが出ているとは思いますが、マンパワーが限られている中で、そればかりに回ってしまっているのが現状ではないか。ぜひ研究活動の姿も示してほしい。また、先ほどから話題になっているが、デジタルアーカイブというかたちで所蔵作品の簡単な写真と概要を少しずつでもインターネット上に上げていけば、佐賀県にどのようなものが所蔵されているか、足を運ばずともわかる。継続的に整備を行ってはどうか。

**事務局**：作品の購入費については文化課で一括して予算化しており、県下 4 館が要求したものを協議して購入している。実際には今年度も当館の枠として 300 万程度分を購入している。デジタルアーカイブについては以前運用していたものの、更新がうまくいかず機能しなくなった。来年度予算化できれば展開していきたい。次回の協議会で具体的な計画を示したい。

**委員長**：時間となりましたので、これで全ての議題についての協議を終了いたします。